

研究課題名	付属器腫瘍茎捻転にて緊急手術を施行した症例の検討
実施責任者	所属・職名： 産婦人科 部長
	氏名： 清水 顕
研究の概要	付属器腫瘍茎捻転は婦人科急性腹症の代表的疾患であり、付属器温存のためには早期の診断と介入が必要です。当科では付属器温存希望のある付属器腫瘍茎捻転症例では、術中に捻転を介助し虚血性変化が改善した場合には、付属器腫瘍摘出術を行っています。しかし、虚血性変化が改善せず、温存希望に添えず付属器摘出に至る症例もあります。付属器温存できなかった要因を検討し、今後、より安全にご期待に添える医療を提供するために、当院での付属器腫瘍茎捻転症例を後方視的に検討します。
対象となる個人情報	調査項目：電子カルテ、手術動画から下記の情報を調査します。 患者背景（年齢、BMI、手術既往、妊娠歴等） 手術所見（腹腔内所見、腫瘍の病理的診断、出血量、術後経過など）
実施の期間	西暦 2015 年 1 月 1 日より
	西暦 2024 年 12 月 31 日まで
研究対象	2015 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日までに、当院で腹腔鏡下付属器腫瘍手術を施行した患者さんが対象となります。